

# 研修だより

No.5

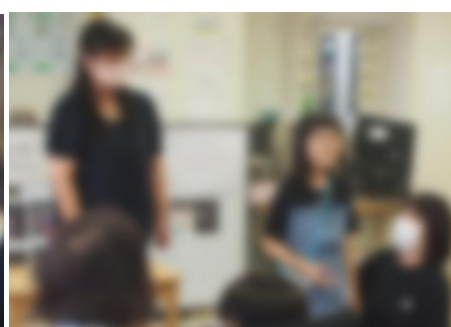
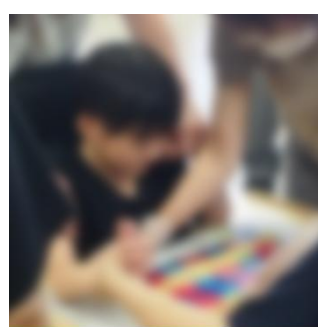
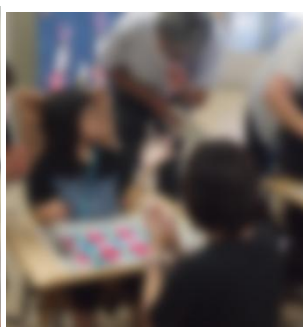
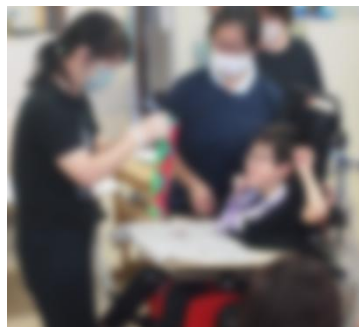


## 2 学期の全校研が行われました!

9月8日(月)にはのぼの学級(平岡先生・清末先生)の授業、9月24日(水)に3年1組(塩見先生)の授業で全校研が行われました。授業構想シートを使い子どもたちの実態に合わせ、授業づくりを行っていました。事後研でのたくさんの意見を簡単にまとめましたのでぜひご覧になってください。

### ほのぼの学級 平岡先生・清末先生 生活単元学習

「おじいちゃん、おばあちゃんがよろこぶ、おりぞめをつくろう」



仮説1 「学びのデザイン」をし、自己評価することで、主体的に学習しようとするための工夫に関わって

- 個人でめあてを選んだり、色を決めたりなど実態に合わせた入念な準備が良く、子どもたちは生き生きと活動していた。

仮説2 他者との関わり合いをもつことでより「深い学び」を探究しようとするための手立てに関わって

- 担任が子どもの作品を見せて紹介するなど、できる範囲での交流があったのがよかった。
- 友達とは難しいが、教員との関わりは多くみられた。
- ▲他のブロックと同じように交流するのは難しいと感じた。ほのぼの学級に合った交流の仕方があるとよい。

授業全体に関わって

- 普段見られない指導の様子(介助員さんとの連携)を見ることが出来てよかった。
- 発達段階や実態が全く違う子どもたちを一斉指導するのは大変なことだが、「ほのぼのみんな」の時間を大切にしていることが伝わってきてよかった。
- 視覚支援資料(板書や掲示等)に細かな配慮を感じた。
- 事前にどの困り感を抱くか予想しているのがよかった。
- 介助員さんと「待ち」の姿勢の共有をしているのがよかった。
- 椅子を使って補助するなど、物理的にも近い距離で指導する様子がよかった。
- ▲振り返りがどの程度有効なのか。

## 3年1組 塩見先生 国語「ちいちゃんのかげおくり」



**仮説1 「学びのデザイン」をし、自己評価することで、主体的に学習しようとするための工夫に関わって**

- 構想シートを毎時間活用し、学習の見通しをもてるようにしているところがよく、子どもにとって使う価値のあるものになっていた。
- 叙述カードを移動させて行う活動などICT機器を授業に取り入れて効率を高めていたところがよかった。
- ▲例文も文字数も必要だが、ループリックの情報量が多いと感じた。
- ▲構想シートの「問い」の部分と「何をするのか」のゴールの部分はどう設定するのが大切だと感じた。
- ▲課題と授業内容のズレを感じたので、「問い」の部分を単元で追及していけたら良いのではないかなと思った。

**仮説2 他者との関わり合いをもつことでより「深い学び」を探究しようとするための手立てに関わって**

- 個人思考→自由交流→全体交流の流れがスムーズでよいと思った。自由交流の中で同じ考えや違う考えどちらの人も交流してよいという言葉掛けが子どもたちにとって伝え合う視点がわかりやすくなってよいと思った。
- 自分の考えや理由の発表の仕方が身に付いていた。
- ▲全体で心メーターをまとめたが、個別にまとめてもよかった。
- ▲全体交流を始める前に「それぞれの意見を聞き合いながら、ちいちゃんは幸せだったのか、みんなで考えていこう」と視点をつくると、「いいと思います」以外の反応がもっと豊かになる。

**授業全体に関わって**

- 前向きな言葉掛けが多くあったのがよかった。
- 選んだ文章をもとに、自分の考えをまとめるのは低位の子も取り掛かりやすくてよいと感じた。
- 児童の意見と関連付けて、本時の場面やこれまでの場面の叙述に立ち返り、人物の状況や心情を考えさせていることがよかった。(既習事項を振り返られる掲示も活用し全体で確認することがよかった。)
- 心メーターが意見をもつうえで有効だった。違いも視覚的にわかりやすかった。
- 終末で、改めて確認していた「登場人物と読み手のズレ」を整理できたのが良かった。
- ▲本時の活動と課題が合っていないように感じた。
- ▲本時の活動では、ノートを使う必要性があまり感じられなかった。
- ▲読み手の思いも大切であるが、内容を深めるためにちいちゃんの思いに絞るべきであったと思う。
- ▲それぞれの文でも赤が多い子や青が多い子を分けるような板書が見やすいのではと感じた。

《校長先生より》

これからの研究について、自分事としてとらえ、一人一人が授業改善する必要がある。子どもの目が輝いた授業を目指してほしい。

《石山指導主事より》

指導と評価の一体化。協働的な学習の場面。個→全体→個の流れが良かった。課題意識をもつと子どもは自走する。課題提示の仕方の工夫が大切である。

《河江指導主事より》

これからは答えのない問いの解き方を考える力を育てることが求められる。授業では、子どもに委ねる時間を増やしゴールからの逆算が大切。教師の関わり方の質の向上や視点を明確にした見取る力が大切である。

平岡先生、清末先生、塩見先生 ありがとうございます！